

## 令和6年度 吹田市肺がん検診精度管理委員会 要旨

### 1 日時

令和7年(2025年)1月29日(水) 午後2時～3時

### 2 方法

Zoom ミーティングを利用した Web と対面開催

### 3 会場

吹田市立保健センター3階 特別会議室

### 4 出席委員

相馬 孝委員、辻井 健一委員、伴 秀利委員、長 澄人委員、横内 秀起委員、高橋 雅士委員、川西 克幸委員、小田 知文委員、狭間 礼子委員

### 5 市出席者

健康医療部成人保健課

朴 裕輝課長、川見 知佳主幹、谷内 佳代主査、森川 響子主任、西野 縣主任

### 6 会議内容

#### (1) 委員紹介

#### (2) 委員長選出

辻井委員に決定

#### (3) 報告・周知事項

ア 吹田市肺がん検診・結核検診実施状況について

・事務局より、資料2-1、資料2-2、資料3、資料4の説明

<肺がん疑いのため長期経過観察中のケースの追跡期間について>

#### 事務局

精密検査結果の追跡調査をする中で、近年、肺がん疑いで経過観察が長期間続く患者が増えてきている印象である。長期の経過観察を必要とするようなケースについては、どこまで追跡調査をすべきか、委員の先生方の意見を伺いたい。

#### A 委員

フォローの期間は難しいと思う。フォローを打ち切った際に医療機関から連絡するしかない気がする。例えば、2年経過観察し、変化がないため、フォローアップを終了したとフォローアップしている医療機関から連絡を入れるのはどうか。データをとっている市側から、これで終了と決めるこ

とは難しい。

**B 委員**

肺がんの場合は、胃がん等と異なり画像上フォローが必要な場合が多々ある。特に腺がんで、数年経っても大きさが変わらないようなものがたくさんある。胃がんであれば内視鏡で細胞を採ったらわかるが、肺がんの場合はそう簡単にはいかない。どうしても経過観察という症例が増えてしまうのはやむを得ないと思う。何年フォローするか、行政として決めることはなかなか難しい問題だと思う。滋賀県ではおよそ2年ぐらいという目途で、結果を集めるようにしている。

**C 委員**

私もおよそ2年くらいを目途にと考えているが、他に意見のある方はいるか。

(委員からの意見は特になし)

では引き続き、2年を目途に追跡する。

イ 令和5年度 肺がん検診チェックリスト集計結果について

・事務局より、資料2-2 説明

(委員からの意見は特になし)

ウ その他

<肺がんであったケースについて>

**D 委員**

肺がんであったケースの詳細で、今までのデータが出てきていると思うが、以前のデータと比べて以前から疑わしい影があったのかが知りたいところである。以前の画像に本当に影がなかったのか、それとも何らかの影があったのかが、分かるようであれば、参考になるかもしれない。

**C 委員**

できるかどうかは分からないが、そのような意見も参考にさせてもらえたらと思う。

<精度管理について>

**B 委員**

滋賀県の場合は、要精検率がなかなか下がらないところがあり、読影の先生方には特に要精検率が高いところには、これぐらい高いという通知を出しているが、それでもなかなか下がらない。それが今一番課題になっている。

厚労省の指針のプロセス指標が厳しくなり、いわゆる特異度を上げなければいけないという検診のため、要精検率は下げることが重要と思う。特に高い要精検率の医療機関の先生方に、続けてお願いしていこうと思っている。プロセス指標がかなり厳しくなり、どうしても要精検率を中心に、基準値に届かないということが、どの県も同様に出てきていると思う。

あくまでも厚労省の指針は、各市町村が肺がん検診の実施において参考にしなさいというふうに書いているので、数字だけにあまり縛られない方が個人的には良いと思う。やはりある程度感度も大事なので、そのバランスのいいところで行うべきと思う。それで、吹田市の肺がん検診に関しては、高い精度で同じレベルを推移されていると思うので、このレベルを維持してもらいたいと思

う。

<画像 AI について>

**E 委員**

二次読影に画像AIを導入して3年目ぐらいになる。実際使われてその感想はいかがか。

**D 委員**

実際、未だにニップルや化骨をAIで拾うところもあり、紛らわしいが、気づかなかつたところにチェックが入っていると、再確認するきっかけになる。診断の補助になっていると思う。

**F 委員**

個人的にはだいぶ診断精度が上がってきていると感じる。化骨、ニップルを引っかけるところは相変わらずあるが、AIが指摘した部位を条件を変えて確認すると、何かあるということが、増えてきているという印象である。

— 終了 —